

女性社員訪問¹⁵ 私たちはいま

(株)浅間製作所 丹原朋美さん

電動ハンドル機(左)と手打ち式ハンドル機(右)の前で。
2年に1回更新される制服は女性社員も楽しみにしている



プロフィール

2006年3月入社。以降生産管理部でキャリアを積み、現在主任。産休・育休を経て元の部署である同部購買課に復帰し、フルタイムで活躍中。生産本部生産管理部購買課購買係

(株)浅間製作所

1948年4月創業。創業者の中林七四郎氏が自転車部品からヒントを得て、パチンコ発射装置の手打ちハンドルを製造したことから始まる。現代版パチンコ台の原型とも言える「正村ゲージ」に組み込まれ、パチンコが人気となる理由の一つにもなった。以来、新局面に対応する創造力と、確実なものづくりを追求し、遊技機部品の開発・製造を手掛ける精密機械部品メーカーとして、業界に必要不可欠な存在であり続けている。

購買部に所属して
浅間製作所は、ファブレス志向を強めながらも工場機能を持ち、同時に遊技機部品の最先端デザインを企画・提案するクリエイティブにも力を入れている。遊技機と共に歩んできた老舗の底力を、廊下に展示された役物から感じた。歴史と同時に多様性を持つ同社で働く、ママ社員の丹原さんにお話を聞きした。

— 私にはパチンコ機のハンドルや役物を作る会社という知識しかないのですが、丹原さんはどんなお仕事をされているのですか？
丹原 私の所属する購買部という

部署は、1点物の試作品であれ量産品であれ、製作する際に必要な材料や部品を、要求通りの品質、個数、価格、納期で調達する役割を担っています。調達先の選定や

価格など、あらゆる交渉ごとは男性社員が担当していますが、その中で私は、バックアップ的な仕入先情報や社内システムへの仕入単価の入力、商品流通に関係する各種資料の作成などを行っています。

ミス許されない部署

— ざっとお聞きしてもお仕事の内容は複雑そうですね。

丹原 そうですね、仕入先とお取引先、さらには社内の企画部門と調整する必要もありますから、確かに単純な内容ではないですね。例えば、お客様に納品する際の試算や、金型の商品流通経路と保管場所が合っているかの確認。量産前の申請案件に関するいろいろな部材の手配の他、伝票の種類や材料が間違っていないかといった確認もありますね。当社に納品される部品も、どのように作られてどこから入荷してくるかの工程をまとめた資料作りもありますし、お客様に提出する資料であれば、どこかの空港を経由してくるかとか、万が一災害があった場合のリスク管理なども必要です。さらに、何千台と出荷される部品ですから、仕入単価をちよっと間違えただけで、大きなマ

イナスにつながります。あらゆる場面でミスが許されない部署だと思っています。

——緊張感が漂ってきます。

丹原 万が一が起った時に、どんな対処をするのかは常に考えています。1人で考えるだけでなく、購買課のメンバーや生産管理部の部長にも何かあった時はすぐに相談し、対策をみんなでも考えるので、緊張感を持ちつつもあまり気負わないよう取り組んでいます。購買課は年齢が近いこともあり、質問しやすいというのがあります。また私が困って相談しても、手を止めて真剣に聞いてくれ対処を考えてくれるので、本当に助かっています。

産休でも暖かい配慮

——今日社内ですれ違った方は20代30代の方が多いようですが、他にも産休・育休取得者がいらっしゃるのですか。

丹原 まだ少ないですが、総務部の方が前例を作り制度を整えてくれたので、私自身は何の迷いもなく、席を取っておいてくださいとお願いました(笑)。

——産休・育休からの復帰はどんなお気持ちでしたか。

丹原 産休経験者の友達から、産

確認、手配、リスク管理など 緊張続きますが、気負わずに

休明けは会社に居づらいという話しを聞いていたし、自分の頭もすぐにはフルに働かないから迷惑をかけてしまうだろうと不安だったのですが、みなさんが「戻ってきてくれて助かったよ」と言ってくださって、本当にそれは嬉しかったです。協力会社の方までそう言ってくださったのには驚きましたし、必要とされているのだと思えました。これだけでも感謝の気持ちでいっぱいですよ。

——繁忙期はたいへんだと思うのですが。

丹原 復帰後フルタイムで働いていますが、購買課にはお子さんの方が多くいるからか、男性陣が以前より気を遣ってなるべく私を早く帰そうとするのです。男性陣も忙しいのに残りを引き継いでやってくくださる、本当にいい会社です。

進捗ボード作り効果

——日常業務のリレーはどうやるのですか？

丹原 案件はある時期に重なることが多く、また同じような部品を案件ごとに注文するので、けっこう混乱しやすいのです。そんな状

態でも間違いなくスムーズに進めるため、進捗を書き込んでおくボードを作りました。いつどこに何を発注し、いつまでに納品するか、書類はどこまで整えてあるか、をいちいちメールを開いて確認するよりも、ぱっと見てわかるようにしてあります。最初は自分のメモ代わりだったのですが、これを見れば誰でも進捗状況がわかるので、今では部門全体で活用しています。

——何をやっているかお互いにくわかりますね。

丹原 はい、それとこれは私に限った事ではなくて、例えば「ここがミスの原因なのですが」という話をする、みなさん考えて改良してくれれます。役職の上下は関係なくこうしては？ という提案は普段でも展開でき、意見を言いやすい環境でもあるので、自分の中にためることが無いですね。そしてその結果は、より好条件な部品調達だったりリカバリ能力の向上につながったりしてみんなが実感します。

先読んだサポート心に

——それにしても関係先が多数な

ので、緩衝材として疲れることもあるのでは？

丹原 正直なところ、どちらにも真剣ですから無理な話をされることもあり。ただ、次の業務に感情をひきずってミスするのは嫌なので、電話を

採用方針・育成方針

女性も貴重な戦力として認識しており、正社員以外にも多様な雇用形態を用意している。産休・育休取得後の復帰対応だけでなく、その後のライフスタイルの変化に合わせて勤務形態を選べるよう柔軟に対応している。

社員育成にあたっては「女性だから」という概念はなく、社員個々の能力伸長に重点を置く。

切った時に忘れるようにしています。怒ってもおなかがあくだけだし、昔祖母から「怒る暇があったら笑いなさい」と言われていたのもあるかなと思います。

——それには私も共感します。

丹原 私は長く働きたいと思っていて、それなら和気あいあいとして、どなたもが親切な浅間製作所で働き続けたいですね。購買課の守備範囲はとても広いのですが、多忙な男性陣の動きを見ながら必要な資料をすつと差し出すような一歩先を読んだサポートができています。

(構成/佐藤聖子 広報調査委員会)